

第2回 桐生市学校規模等適正化川内中学校区検討委員会 議事録

○日 時 令和6年7月4日（木） 午後2時～午後3時42分

○場 所 桐生市立川内中学校 4階 図書室

○出席者

【桐生市学校規模等適正化川内中学校区検討委員会】8名

委員長	池末 晋介
副委員長	田村 光市
委員	大屋 昌太
委員	塩野 文男
委員	尾花 和子
委員	福田 康嗣
委員	須永 逸郎
委員	神山 精二

【桐生市教育委員会】9名

《事務局》

教育部長	園田 博宣
教育部参事	渡邊 真宏
教育部総務課長	峯岸 孝徳
教育部学校教育課長	須藤 英隆
教育部教育環境課長	糸井 広江
教育部教育環境課教育未来係長	千葉 敦弘
教育部教育環境課教育未来係	新井 広明
教育部教育環境課教育未来係	小池 正文
教育部教育環境課教育未来係	四分一 勝

【傍聴者】 2名

【報道機関】 1社

○議事の概要

1 開 会 [開始：午後 2 時 00 分]

- ・委員及び事務局自己紹介
- ・事務局から、過半数以上の委員の出席により、会議が成立することを報告。

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- ・議事進行は、桐生市学校規模等適正化中学校区検討委員会及び地域協議会設置要綱第 8 条の規定により、委員長が議長を務める。
- ・資料 7～資料 9 に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
議長(委員長)	ただいま事務局から説明がございましたが、これについてご質問、ご意見等ございましたら、挙手にてお願いします。
委員	資料 7 の 4 ページに、望ましい学校規模ということで、桐生市内のアンケート結果の数値が出ていますが、これは文科省の基準に合わせたものなのか、それとも桐生独自のものなのかを教えていただければと思います。
事務局 (学校教育課長)	資料 7 の 1 ページに、小学校と中学校の学級数による小規模、標準規模、大規模の図がございます。小学校では、1 学級から 11 学級が小規模校、12 学級から 18 学級で、1 学年 2 クラスから 3 クラスが標準規模校、19 学級以上で、1 学年 3 クラス以上が大規模校となります。中学校では、1 学級から 11 学級が小規模校、12 学級から 18 学級が標準規模校、19 学級以上が大規模校となります。審議会において、基本方針を協議する際に実施したアンケートでは、小学校の望ましい規模は 1 学年 2 クラス以上、中学校は 1 学年 3 クラス以上という結果であり、そうした結果を基に審議会で協議し、審議会から同様の答申がありました。

4 議 題

(1) 川内中学校区における学校規模等適正化の手法について

- ・資料 3～資料 6 に基づき、事務局から説明。
- ・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
議長(委員長)	ただいまの説明のとおり、本日は、川内中学校区の学校規模の適正化の手法について、皆様にご協議をいただく場となっております。先ほどの説明にもありましたが、現在、川内小学校は、1 年生が 1 学級という状況となっております。前回の会議では、皆さんから生徒数が減少し、中学生はやりたい部活動がないということや、逆に、川内地区の恵まれた自然環境の中で子供を育てていきたいというご意見がございました。そういったことを踏まえ、本日は、児童生徒数の今後の見込みや、小規模校の影響を考えていただきな

発 言 者	発 言 内 容
	がら、適正化の手法について検討いただければと思います。どのようにして適正化を図るのが良いのか、皆さんにご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。
委員	小中学校は、地元においては宝物でございます。この宝物がなくなるということは、正直言って過疎化に拍車をかけることにつながります。しかし、子供たちは、日本の宝でございますので、できるのであれば、教育環境の良いところで、部活動や色々な交流を通して、健やかな人間に育ってもらいたいと思っています。そこで、教育委員会にお聞きしたいのは、このまま行くと急激に子供たちが少なくなる訳ですが、10年先を見て、実際に中学校が何校ぐらいあれば良いと考えているのでしょうか。そのあたりが分かってくると、今後の話し合いを進めやすくなるのではないかと感じています。
議長（委員長）	事務局、お願いします。
事務局 (教育環境課長)	今後の子供たちの人数の減少を考えると、大体何校くらいの学校が必要かということですが、委員さんがおっしゃったように、学校は地域の宝であるということを考え、それぞれの地域の方々のご意見を伺いながら、組み立てていくという進め方で検討委員会を行っております。ただ、児童生徒数の減少が見込まれる中で、子供たちにとってより良い環境を作っていくためには、学校を統合する必要があると考えています。
議長（委員長）	市P連の総会の折に、昨年度の出生数が確か300人くらいなので、単純にその子供たちが6年後に小学校に上がる時は、桐生市内で1学年10クラスもあれば足りるという話がありました。そうすると、今の数ではどうしようもないということになりますが、具体的に何校くらいということが分からないと、難しいところがあります。検討委員会主導で進めさせていただいていますが、ある程度のところで、市の方針というか、お考えというものを示すというご予定はないのでしょうか。
事務局 (教育環境課長)	資料5などを参考にいただきながら、まずは、それぞれの地区のお考えを伺いたいと考えております。
議長（委員長）	他の中学校区の方とも話しているのですが、選択肢が多すぎて、難しいところがあります。例えば、川内中学校区で結論を出さなければならない時に、そもそも結論が出るのかどうか、どういう結論にするのか、一地域で考えられることでもないように思います。どこかのタイミングで、市のビジョンのようなものを行政として、10年後に子供たちがどのくらいになり、そうするとどのくらいの規模にしていきたいのか、といった情報が何もない状況で会議をしているように思います。
委員	川内地区の未就学児は、0歳が10数名と、1歳と2歳がそれぞれ19名という状況であると聞いています。自ずと学校の数が分かってきます。適正規模の環境で教育するとなれば、数校あれば済んでしまいます。ある程度絞っていかないと話が前に進まないように思います。先ほど、委員長さんが言われたように、具体的な方針を早めに出していただいた方が、良いのではない

発 言 者	発 言 内 容
	かと思います。川内中学校、川内小学校の場合は、例えば、この資料の地図にもありますが、一番近いのは相生で、相生中学校区が一番考えやすいわけです。相生中学校区であれば、相生小と天沼小、桜木中学校区であれば、桜木小と神明小というような形になります。川内小が相生小と一緒にするにしても、非常に距離感があります。それを考えますと、川内中学校区と相生中学校区で統合するというのは非常に難しい点があるように思います。良い教育環境で子供たちを育てるには、どうしても統廃合しないとできない。人数が把握できているわけですから、事務局に早めに方針を出していただいた方が、審議しやすいと思いますが、いかがでしょうか。
議長（委員長）	現時点では、事務局には予定がなさそうですので、ただ今のような意見が強くあるということをお伝えしておきます。この場で結論は出ないと思いますが、その他、ご意見をいただければと思います。
委員	先ほどの出生数や通学距離からすると、最終的には、適正規模の学校は 1 校で間に合うということです。距離を考えてみましたが、東小で間に合ってしまう。その状態になる前に、何らか形の統廃合を進めていきたいと考えています。確かに、我々が考えていることは、専門家ではないので非常に難しいところがありますが、私の持論は、地元の小中学校を残し、小中一貫校にしたいという考えです。 6 月に広島県の宮島方面に行ってきましたが、あの島は学校が残っています。本土から学生を呼んでいるらしいです。川内もできれば近隣の地区から呼べるような形が取れればと考えています。市全体では、同じ人数ですが、川内地区を残すためにそういう形が取れないかと考えています。保育園の場合は、相生方面から来ているようです。我々が行くというだけではなく、来てもらうという形の検討もしたいと思います。先ほど、委員からの話にもありましたが、地元に残したいと考えています。川内は、非常に生活環境の良いところ。そういう中で、子供たちを育てたいと思っています。黒保根は、小中一貫校という形で小学校と中学校がありますが、通学時間 30 分以内、通学の手段は問わないという条件からすると、黒保根から川内へ来ることができます。いつ、どのような流れで、あのような形になったかは分かりませんが、あの段階で少ない人数でやるよりは、こちらに来て一貫校を作った方がもっと良かったのかなとデータを見ながら思っています。 先ほど宮島の話をしてきましたが、あそこは世界遺産です。規模は小さいですが、白瀧神社も日本遺産であり、桐生織物の発祥の地です。学校がなくなる、移住者も来なくなる、そうなった場合には、本当に消滅してしまいます。桐生市が消滅するところまで行ってしまうのではないかと思いますので、できれば学校を残すことを考えています。黒保根地区に比べて、川内は空き家が多いので、そこに入っていいただければ、親も仕事に通いやすいし、子供たちも近場で大勢の子供と学習ができます。黒保根の場合は、新築の住宅を準備して移住者を募ったらしいのですが、川内の場合は、空き家をリノベーションすれば、より多くの人が入れるのではないかと。鷹の巣団地もあります。手

発 言 者	発 言 内 容
	段を色々講じながら、できれば子供たちだけではなく、親も一緒に川内に来てもらって、学校を存続させたいという思いでいます。先ほど委員が話されたように、できればビジョンを教育委員会として、提示してもらえないかと思います。市長が桐生独特の教育環境を作ると言っていますが、どのように捉えたら良いのか。例えば、小中一貫か、もっと別の方法があるのか、できれば教育委員会の方で、桐生独特の教育方針を考えてもらえればと思っています。
議長（委員長）	はい、どうぞ。
委員	委員さんから、桐生独特の教育環境という話がありましたが、市教委の基本方針の中にある、桐生ならではの特色ある教育の充実を図るという言葉が好きです。先ほど世界遺産の話があり、そういった視点でこの川内地区を見た時に、桐生ならではの特色ある教育の充実が図れる地域だと思っています。理由は4つあります。1点目は、地区の皆さんでホタルを守る環境があるということ。月曜日に川内小学校では3年生がホタルの幼虫の放流をしました。地域の方が丁寧に教えてくださいました。成虫の交尾から指導してくださり、子供たちは一生懸命に幼虫まで育てました。学校のすぐ裏に山田川がある。このような環境はなかなかないと思いました。2点目は、白瀧神社です。桐生市に織物を伝えた白瀧姫を祀る神社で、日本遺産になっている点が大きいと思います。3点目は、縄文時代の千網谷戸遺跡や出土品である華麗な耳飾りなどです。4点目は鳴神山に生息し、世界でもここにしかないカッコソウがあるという点です。桐生ならではの特色ある教育を実現できる地域であると思っています。ただ、子供が減るとするのは、学校運営上非常に困ります。どの地区が一番桐生ならではの特色ある教育ができるのかということが、統廃合を進めていく上での視点になると思っていますので、相生中学校区まで広げた広い範囲で、協議を進めていく必要があると思っています。
議長（委員長）	ありがとうございます。是非、ご意見をお願いします。
委員	子供の数が減るとするのは、目に見えているので、例えば、1学年30人しかいないのであれば、15人で2クラスという形を取るとか、なるべくクラス替えができるような環境を、これから先1学年1クラスになっていく予想ではあるので、そういう方向にしていっての方が良いのかと思います。また、後々のことを考えれば、9年制の学園にするのか統廃合するのか、いずれにしても必ず来ることだと思います。先ほどから色々川内への郷土愛の話が出ていますが、私は川内の人間ではないですが、これだけ豊かな環境がある中で子供を育てられることを考えれば、子供たちには、この地域で大人になるまで生活してもらった方が桐生市のためにもなるし、川内のためにもなるのかと思います。
議長（委員長）	ありがとうございます。はい、お願いします。
委員	先ほどの委員さんもおっしゃっていましたが、今年に入って子供のいる家族が、中学のそばと郵便局のそばの中古住宅に移住してきました。2件とも

発 言 者	発 言 内 容
	小学生がいます。先ほどのお話にあったように川内の魅力を、区を上げてアピールしていかないと、ホテルやカッソウなどの川内地区の良さを分かってもらえないように思います。区をあげて何か良いアイデアを出しながら、16区をアピールするのはどうでしょうか。
議長（委員長）	委員、お願いします。
委員	良いアドバイスをありがとうございます。このことは、桐生市との関係がありますが、空き家対策室に登録しておくの家が売れる環境ができています。私の住んでいる川内町5丁目第2町会、宝徳寺の近くですが、埼玉方面や東京方面から移住してくるような話を聞きました。桐生市の空き家対策室が地元の企業と進めたということで、我々だけではできません。桐生市長の公約にもありましたが、そういった対策を活用していけば、移住の期待ができます。最終的には、子供の数ということになってしまうのですが。 私の調べた文科省の調査データですと、小中一貫の学校数が年々増えています。2016年にスタートし、2017年は300校ぐらいでしたが、2020年には2,170校ぐらいに増えているようです。2023年はもっと増えているかもしれません。何らかのメリットがあり、こういう数字が出ているのかと思いますので、できれば専門の人に調べていただいて、我々の望む小中一貫が取れないか、もう少し検討していただきたいと思います。学校適正規模というのはもちろん分かりますが、全国的に小中一貫校が増えている理由もあると思いますので検討をお願いします。
議長（委員長）	そういうことについて、教育委員会に情報が集まったり、集めたりということがあるのでしょうか。
事務局 (教育環境課長)	前回の検討委員会にも小中一貫のお話が出ましたので、今回、資料8「小中一貫教育制度の概要」をご用意させていただきました。先ほどの小中一貫教育の説明にもありましたが、現時点で目指しているのは、小学校は1校当たり12学級以上、中学校は1校当たり9学級以上、そして、学級規模の基準としての1学級当たりの児童生徒数もお示ししておりますが、その基準を目指しながら、より良い教育環境を作っていくということになります。小中一貫教育を目指す場合には、教育条件を改善するような対策をする必要があると考えております。令和20年を目安にして、資料5の児童生徒数の見込みなどを参考にいただきながら、川内中学校区内の小学校と中学校のみの小中一貫教育の学校を作った場合、どうしても子供の数が少ないために、各学年が単学級になってしまう状況を改善できないというところもご考慮いただき、ご検討いただきたいと考えております。
議長（委員長）	ありがとうございます。中学校の立場としては、いかがでしょうか。
委員	どちらが良いのか分からない状況です。一貫校には一貫校の良さがありますし、先ほどからおっしゃられているように、多人数の方が良いという話も分かります。どちらもメリット、デメリットがありすぎて、決められない状況です。人数について、クラスが複数あった方が、より良い教育を受けら

発 言 者	発 言 内 容
	れるということに対しては疑問もあります。人数が多ければ良いとも思いませんし、逆に体育祭や合唱コンクールなどは人数が少なくて寂しいと思うところもあります。本当にどちらが良いのか分からない状況です。私は川内生まれ川内育ちで、46 年生活していますが、平和だという認識が強く、学校での揉め事もなく、幸せな環境で暮らしていたこともあり、川内に学校があつてほしいという気持ちです。 部活の問題で言うと、息子は野球部ですけど、色々な学校と一緒に組みます。最初に相生中と一緒にあって、次は清流中と一緒にになりましたが、人間関係も色々変わってしまうので、信頼関係が生まれる前にまた別れてしまい、子供も色々感じていることがあるように思っています。ただ、そのように感じる事が良いことか、悪いことかというのも分からないところがあります。選択肢が多すぎて、分からないというのが率直な気持ちです。
議長（委員長）	ありがとうございます。その他、ご意見はございますか。
委員	川内中学校は、生徒数が約 150 名で、学校規模で言うと小規模校にあたります。桐生市内のほとんどの学校が小規模校になってきていますが、小規模校の良いところは、一人一人の子供たちの様子を良く理解できるので、先生方と共通理解を図りながら充実した個別支援を行える点であると思います。学校経営をしていく上で、今、非常に危惧していることがあります。人間関係が固定化されてしまい、関係が悪くなるとその環境を変えることができず、解消できないまま不登校になってしまう生徒も出てくるかもしれないという心配です。 先日、本校で体育祭が行われました。子供たちはよく頑張り、保護者の方も来賓の方もたくさん来てくださって応援してもらい大変盛り上がりしました。各学年 2 学級ですが、何とか盛り上がったと思います。最後は、生徒会の種目で部活対抗リレーでしたが、1 つのレースに 4 チームぐらいが出たので、盛り上がったという感じがしました。これが単学級になると、子供たちのモチベーションを高めていく、切磋琢磨させていく環境として不十分な部分が出てくるのではないかと思います。部活動については、合同チームでやらざるを得ない場合もありますし、部活を停止にせざるを得ない場合もあり、子供たちからすると、選択する部活の数がどうしても制限されてしまいます。地域移行を推奨して取り組んでおりますが、難航しているという話も聞いています。 また、国の基準で決まっていることですが、学級数に応じて、教職員の数が決まってしまうので、本校は、全教科が専門の先生というわけではありません。非常勤の先生を配置していただいておりますが、授業以外は一切子供たちと触れ合うことはございません。今後、子供たちが減ってくると、専門教科の教諭がいない状況が生じ、十分な教育ができなくなってしまうのではないかと思います。また、学校の中には色々な分掌がありまして、学校の規模に関わらず、しなければならない業務があります。主任や担当は、どの学校も同じようにありますから、本校ですと、1 人の教員が 3 つから 5

発 言 者	発 言 内 容
	つぐらいを担当していますので、多忙感だけではなく、長時間勤務にもつながります。今のところ、病休になるケースはありませんが、子どもの数が更に減少し、教員の負担が増加することによって、病休になるケースが出てくることを危惧しています。何が良いのか、正直考えがはっきりしておりません。現在、各学年 2 クラスですが、これがギリギリの状態であると思っています。教育委員会で中学校は 9 学級以上、1 学年 3 学級以上という基本方針を示されましたが、この規模であれば、学校行事をはじめ色々な活動も盛り上がりますし、社会性を身につけることにもつながります。互いに競い合いながら自分の能力を発揮できますので、まさに、令和の日本型学校教育に近づくのではないかと考えております。そこに持っていくのに、統廃合なのか、小中一貫なのかについては何とも言えません。皆さんが生まれ育った地区ですから、とても強い郷土愛があると思いますので、統廃合してもそれぞれの地区の良さが生かせるような、教育活動が行える状況にしていくことが理想であると思っています。
議長（委員長）	ありがとうございます。その他、ご意見はございますか。
委員	実際に関わってくる子供たちというのは、おそらく保育園、年長さんぐらいの子が影響してくるものと思いますので、できればその年代の保護者の方の意見も取り入れても良いのではないかと思います。また、できれば会議に、生徒会長とか副会長などの子供たちの意見を取り入れても良いのではないのでしょうか。私たち大人の意見も確かに必要ですが、実際にかかわる子供たちの目線の意見も聞いてみたいと感じました。
議長（委員長）	ありがとうございます。委員、お願いします。
委員	私は、川内南小と川内北小が一緒になる時に委員をさせていただきました。その時は本当に大変でした。同じ川内であっても、皆さんの地元愛が強く、最後は罵声が飛び交うような会議の連続でした。校長先生を始め、会長さんがどれくらい大変だったかという状況を私は目の当たりにしております。不安も確かにございました。一緒になる前に、私の子供 2 人が、川内南小学校に通いまして、下の娘は統合した川内小学校に入学いたしました。しかし、心配をよそに保護者とのコミュニケーションなども特に困ることもなく、子供たちも仲良く健やかに学校生活を送りました。清流中、中央中の保護者の方たちも一緒になる前には、色々な不安があったかもしれません。統合後ですが、保護者のマイナスのご意見を耳にすることがありました。私は小中一貫が良いのか、地域外の子たちと一緒にの学校生活が良いのか、どちらが良いとは言えませんが、もし一緒になることが不安であるならば、先輩である中央中、清流中の保護者の方たちがどのようなことが大変だったのか、携わった先生方がその時にどんな問題を抱えていたのか、他地区で経験をされた方のご意見を聞いた上で前に進んでいくのはいかがでしょうか。保護者の方たちもこれから子供たちを預けていく上で、不安もたくさんあるかと思っておりますので、先に一緒になった方たちのご意見なども参考になさったらいかがでしょうか。

発 言 者	発 言 内 容
議長（委員長）	ありがとうございます。
委員	先ほど委員から、若い人たちが会議に入ったらどうかということでしたが、今回の検討委員会には、できるだけ若い人を、関係がある人をとということで保育園の保護者、育成会の会長、主任児童員、青少愛の会長を選出しました。ただ、保育園の保護者が1回目も2回目も欠席ということで、貴重な意見を聴くことができていません。 それから先ほど話があった、前回の統廃合で苦勞した話ですが、これは教育委員会でも把握していると思います。ですから、その苦勞話をここで聞かせてもらえるのか、まとめてからでないと聞けないのかお聞きしたいと思います。
議長（委員長）	事務局、お願いします。
事務局 (教育環境課長)	未就学児の保護者のご意見につきましては、検討委員会の委員になっていただいているほか、基本方針を策定する際の参考にするため、市内全域の小中学生、中学生、未就学児の保護者、児童や生徒、教職員の合計3,893人を対象にアンケート調査を実施しております。また、検討委員会の内容の周知につきましても、若い世代の方々へ届くように取り組んでまいりたいと考えております。 2点目は、平成の時代の適正配置についてですが、中央中、清流中の具体的なことについては、今ここではお答えできませんが、平成の学校適正配置の際に、教育委員会から学校の具体的な組み合わせを提示したところ、地域の声を十分に聴かずに決めたと受け取られ、大変な思いをしたと聞いております。こうしたことから、今の段階としては、市が具体的な組み合わせを出すのではなく、まずは、本検討員会において、地域の皆様のご意見をいただき、具体的な案に反映してまいりたいと考えています。
議長（委員長）	保育園の保護者の方がなかなか出席できないのは、会議時間も関係しているように思います。委員の中にも無理して来ていただいている方もいると思います。 今回は、委員長を務めていますので、どちらが良い、何が良いということは基本的には言及しないつもりでいます。会議の進め方については、他地区のPTAの会長とも話題になるのですが、市から丸投げされているようなイメージがあります。単純に意見を吸い上げるというだけなら良いのですが、どうするか決めてくださいというスタンスに感じられます。それで、おそらく各中学校区で困惑しているのではないかと感じています。平成の統合の際にも、色々あったということは聞いていますが、前回はこうなりますよという説明会だったようです。今から進め方をどうこうというのは大変かとは思いますが、今のままの状態で各中学校区の結論を出してくださいと言われても、正直なところ川内中学校区は無理だという感じがしています。各中学校区でそこが一番苦勞している、困惑しているところです。 意見は色々出ていると思いますが、どうしても人数の問題をクリアしなければ駄目だというように聞こえてしまいます。当然、課題をクリアするには、

発 言 者	発 言 内 容
	各学校の人数をクリアしないといけないと思います。小中一貫になっても、部活動は中学校の生徒数が増えないので増えません。教諭の人数とか配置は、ある程度融通が利くのかと思います。今、各中学校区で検討委員会を開いていますので、ある程度の情報が集まった段階で、それを踏まえて、どういうふうにしますではなく、どういうふうに考えていますという市のビジョンをどこかで1度示すことが必要ではないかと感じています。
委員	小中一貫にこだわりがあります。ネットなどを見ると、小中一貫でも人数が少なくても、そんなに悪いことはないというデータが出ています。ですから最後まで小中一貫校へのこだわりを捨てないで進めていきたいと考えています。小規模でも良い活動ができると思います。 先ほど話さなかったことですが、山口県の萩市に松下村塾があります。明治維新の時に活躍した伊藤博文、桂小五郎、木戸孝允らが勉強したところです。見てきましたが、八畳間の中で吉田松陰に学び、明治の時代を動かすような人たちが育っていますので、小中一貫や小規模の教育も悪くないと思っています。最終的に桐生市で1つの学校ぐらいの人数になった時に、どうするのかという課題はありますが、それでもこの地区に小規模校でも良いから残るような形が取れればと考えています。
議長（委員長）	その他、ご意見はございますか。委員、お願いします。
委員	この会議の委員長として、ご苦労があると思います。現在 9 か所で会議をしていますが、とりあえず会議をやったという証拠をつくるだけではなく、委員長が先ほどおっしゃったように、教育委員会としてのビジョンを出しても良いのではないかと思います。そうでないと、非常に運営がしづらいのではないかと思います。教育委員会にお願いですが、小中一貫校の話が出ていますけども、桐生市の人口が 10 万を割ってしまいました。その中で子供たちも今、急激に少なくなっている訳ですが、教育委員会として、もっとユニークな教育方法を考えたことはあるでしょうか。例えば、小中一貫で小学校から中学校を卒業するまで、授業は全て英語でやるというような小中一貫校を始めたとしたら、逆に他地区からも移住が考えられるのではないのでしょうか。子供たちも増えるのではないかと思います。教育の仕方によっては、他の地域からも来るのではないかと思いますので、桐生市でもユニークな教育に取り組む学校が 1 校ぐらいあっても良いのではないかと思いますがいかがでしょうか。
議長（委員長）	事務局、お願いします。
事務局 (学校教育課長)	ご意見ありがとうございます。先ほどのご意見にもありましたが、川内地区には、豊かな自然や歴史など良いところがたくさんあり、そういった環境を生かした教育に取り組まれています。桐生市内の各中学校区におきましても、それぞれの地域にそれぞれの良さがありますので、地域の特色を生かした教育課程を組んで、魅力ある教育に取り組んでいるところです。例えば、北小学校区には、重伝建地区があり、地域の伝統遺産を取り上げた総合学習

発 言 者	発 言 内 容
	の実施、あるいは、梅田南小学校区ではお茶の栽培や米作りなど、農業を営む方々のご協力をいただきながら体験的な学習を行い、特色ある教育に取り組んでいます。教育委員会といたしましても、推奨し支援しているところでございます。
議長（委員長）	先ほどの全て英語でやるということは、教育的には均等ではないので、そこまでは厳しいということですか。
事務局 (教育環境課長)	英語教育を特色とした学校としては、黒保根学園があります。黒保根学園は義務教育学校として9年間を小学校から中学校まで見通した教育の中で、英語教育に力を入れた教育課程のカリキュラムを組んでいるという特徴があります。
議長（委員長）	ありがとうございます。今、この検討委員会で最終的に何校になるかは分かりませんが、適正な規模にしたいというのが主目的なのかと感じています。しかし、今の状況から考えると、これで終わりにはならない。統合したとしても、10年20年経った時に、また適正な規模が確保できないという状況になっていると思います。そのように考えると、今回がゴールではないので、例えば、先ほど委員が強くお話しされていたように、川内は小中一貫にします、他の学校は統合しますとなった場合、標準規模校にはならなくても可能性としてはありますか。
事務局 (教育環境課長)	今回ご協議していただいている学校規模等の適正化の手法の例といたしましては、先ほどからお話に出ている学校統合についても、中学校区内の統合で済むケースや、隣接する中学校区と統合するケースが考えられます。また、現状維持を選ぶ中学校区もあるのではないかと思います。その他に、小中一貫のお話も出ておりますが、小中一貫校にする場合でも、中学校区内の小学校と中学校で義務教育学校を設置するという例もありますし、規模を大きくするために隣接する中学校区内の小学校と中学校を統合した上で義務教育学校を設置するというような手法も考えられますので、検討委員会を開催し、各中学校区のご意見をお聴きしたいと考えております。
議長（委員長）	ありがとうございます。今日は、地区としてどうしようという結論は出せないと思いますので、そのことも踏まえて、次回に向けて最後のご意見になりますが、何かあればまとめていただけたらと思います。
委員	先ほど委員から話があった英語の学校は難しいと思いますが、黒保根で東京から西町インターナショナルスクールを呼んでいます、年間何回ぐらいでしょうか。例えば、川内中学校区が同じような形の小中一貫になった時に、同じような形で来てもらえるのでしょうか。また、将来的に可能であれば、英語教育を特色ある教育のような形で取り入れられたらと思っています。
議長（委員長）	小中一貫校だからということではなく、黒保根小と東京の西町インターナショナルスクールが姉妹校かどうか分かりませんが、以前から交流が続いているようです。年に数回、相互に訪問しながら何十年というレベルでやっているらしいです。

発 言 者	発 言 内 容
事務局 (教育部参事)	委員長のおっしゃる通り、西町インターナショナルスクールと黒保根学園は姉妹校を提携しています。西町インターナショナルスクールの創設者が、黒保根出身の新井領一郎さんのお孫様になります。また、黒保根の鹿角にキャンプ場がございまして、そこに西町インターナショナルスクールのお子さんが、毎年キャンプに来ていたことから交流が生まれ、姉妹校の提携をしたという歴史があります。年間を通して色々な交流を続けており、黒保根に来ていただいた時には、一緒に田植えや稲刈りをしています。また、西町インターナショナルスクールに行った際には、運動祭りに参加させていただいて、学んだ英語を使って交流を行っています。新しい学校でそういった活動をすぐに取り入れられるかということにつきましては、今後検討する必要があると考えております。
議長（委員長）	ありがとうございます。他の中学校区の委員さんから連絡があり、他の検討委員会はどう進んでいるのか、市Pではどのように考えているのか意見を聞きたいということでした。来月あたりに、それぞれの検討委員会の様子について、話をしたいと思っています。また、9月に市P連の会長会議がありますので、そこで各中学校区はどのような状況か、皆さんはどのようなお考えかなどについて、情報交換したいと考えています。次回の会議の時にご報告させていただきます。最後に、ご意見等ございましたらいかがでしょうか。
委員	最後にお願いになりますが、先ほど話があったように、教育委員会には教育のプロとして、我々を導くようなアイデアを出していただき、それを判断しながら進める形にさせていただきたいと思います。

5 その他

6 閉 会 [終了：午後 3 時 42 分]